

「将来像検討委員会」報告書への対応

役員会

2005年12月22日

まず、委員会の皆様の多大なご努力に対して、最大限の敬意の意を表したいと思います。短期間にこれだけの充実したデータの収集、広範囲の意見収集、それらの分析と提言への集約と、そのどれをとっても今後の補習校を考える上で第1級の貴重な基礎資料となっています。

報告書をもとに、理事会が早急にアクションを起こすべき点を次のように抽出しました：

1. 補習校は、長期滞在の子供たちも長く学習できる環境を用意すべきである。報告書に提言されている対策（クラス編成など）の具体化にむけた検討を派遣教員指導の下に始める。
2. その主旨が正確に伝わるよう、学校便覧など各種の文書における「学校基本方針」の文言を見直す作業に着手する。
3. 学校基本方針をチェック・策定する「教育諮問会議（仮称）」を設置する。その基礎資料となる学校評価を定期的実施する。
4. 児童・生徒数の減少、それに伴う派遣教員減員など周辺環境の変動にも対応できる経営モデルの策定をする作業グループを設置し、幼稚部・デイケアの可能性について具体的検討作業を開始する。
5. 外部認定機関による認証、単位認定などをうけるための準備作業を進める作業グループを設置し、2006-2007学年での実現に向けて作業を開始する。
6. 今回の調査アンケート結果を有効利用し保護者、教員との対話をより実質的なものとする。

以下、それぞれの点について、若干の補足をします。

ポイント1, 2, 3について

創立当時と比べて児童・生徒の家庭環境や社会背景が変化したため、「学校基本方針」の見直しが必要であるという委員会の提案に賛成である。一方で、理事会のメンバーや派遣教員がおおむね3年の期間で入れ替わることから、基本方針を安定的に維持していくことも求められる。これは単位認定など外部の認可を受ける場合にも重要である。

報告書では、「教育機関として最高の質の教育をニーズにあった形で提供するの義務」と指摘されている。社会におけるニーズを無視して学校を創設・運営できないことはいままでもない。本補習校の場合、「帰国したときに困らない学力を養う」というニーズにこたえて創立されたと考えられる。そこで検討すべきは、それが現在の「ニーズ」からずれているのか、ずれ

ているとすれば「ニーズ」は何か、ということである。さらには、誰の「ニーズ」なのか、も重要である。「ニーズ」とは、子供の将来にとって何が必要か、なぜ貴重な土曜日を費やしてまで日本語で学ぶのか、という子供の将来という点から見るべきであろう。¹

報告書では、長く米国に滞在する可能性のある子供たちが本校で勉強する意義として、「日本の企業と取引をしたり、日本との文化交流をする可能性も含めて考える」とある。²

滞米期間が長くなればなるほど、なぜ自分はここにいるのか、というアイデンティティの問題がより重要になる。補習校は子供が将来日本との一体感を持てるよう、親が子供にできる代償措置であると捉えれば、比較的短期の滞在で日本に帰る子供たちには勿論のこと、長期（ここでは仮に3年以上とする）の滞在が見込まれる子供にも、この補習校は必要であると言える。したがって、補習校において滞在期間の長短にかかわらず継続して学習できる環境を用意するのが親の世代の務めである。このような観点から見ると、報告書が指摘するように、本補習校の現在の教育のあり方に改善の余地があるといえる。

現在の学校基本方針は注意深く読むと上記のような意図を含んだものと解釈できるが、その主旨が正確に伝わるよう、学校便覧など各種の文書における「学校基本方針」の文言を見直す作業に着手する必要がある。

報告書は具体的に多くの子供たちがより充実した学習ができるようにするための幾つかの改善策（目的別、科目選択性）を提言しており、具体化に向けて校長を始め教員によりさらに検討を加えていくことに賛成である。また、欠席対策、そのほかの保護者の要望として報告書で挙げられていることは、できるだけ多くの子供たちが継続して本補習校で勉強できるようにする、という観点から今後理事会で順次検討を加えていくべき課題であるが、「クラス編成」と比べて必要性は二次的であると考えられる。

学校の基本方針は、常にチェックし必要であれば修正することが必要であるとともに、恒常性・安定性が必要である。このような相反する条件をバランスよく判断していく場として、「教育諮問会議（仮称）」の設置を提案する。学校長、現地教員代表、地元有識者、理事、文部科学省関係者で構成し、数年に一度（たとえば校長の交替期）に基本方針を検討・確認してい

¹本報告書で示された「ニーズ」の中には、保護者のニーズと思われるものもある。たとえば下校時間の不一致で不便であるなどといった「親の都合」が含まれている。また、在校生は現在の本校の基本方針を承知の上で本校を選択したと考えられる。入学後に自分のニーズとずれていたからといって、その乖離を解消するために学校側に変更を求めるのは、そもそも筋違いであろう。

²報告書で挙げられている「意義」は、まず、「長期組」の子供たちを日本という「ムラ」の外において、その「ムラ」と「交流」できる日本語理解力を授ける、という視点である。しかし、補習校の目指すところは、子供たちをできる限り日本「ムラ」の一員にとどめようというところにあるのではないか。

くことにする。検討を具体的かつ実質的なものにするため、会議開催時にあわせて学校評価を実施する。

ポイント4について

報告書では児童生徒数の減少傾向を指摘し、われわれができることはないとしている。たしかに、児童生徒数の増減そのものは不可抗力的な外的要因によるといえるが、経営を預かる理事会の立場からすれば、これにどのように対応するのかが重要である。つまり、外部的条件により増減する児童生徒数により経営のベースが拡大・縮小するが、それに対応できるロバストな経営モデルはどのようなものか、ということを早急に検討し将来の事態に備えなければならないと考える。

これに関連して報告書では、幼稚部の設置、低学年児童の下校時間以後のデイケアが提案されている。報告書にも指摘されているとおり、教育的観点から、また経営的観点から多くのメリットがあることが考えられる。理事会内に検討委員会を設置してさらに具体化することを提案する。

ポイント5について

これは長年要望が出されていたにもかかわらず具体的検討のきっかけをつかめず放置されていたものである。今回の委員会の検討により具体的方向が明確に認識できた。委員会の努力に感謝したい。

報告書にも指摘されているように、子供たちの勉学意欲を促進すること、具体的なメリット（現地校での成果になること、大学受験の際の助けになることなど）が子供たちにあること、現地校で教員をすする補習校教員にもメリットがあること、といった明確な利点がある。また、このことにより、高等部に進学する生徒数の増加が期待され、経営の安定化に寄与する可能性が大きい。

補習校のあり方に対して外部から評価を受けるという絶好の機会でもある。継続性、安定性など組織としての健全性のチェックにも役立つ。

実際、評価を受けようとするとその準備には多大の労力と準備を必要とする。多くの人々の協力（本校教員、保護者、など）が必要となることは明白であるが、その利点はこれらを補っても余りあると考えられるので、ぜひ取り掛かるべきと考える。理事会としては、2006-2007学年までに認可を受けることを目標に作業を進める委員会を設置することを検討すべきである。

ポイント 6 について

今回の委員会報告書は補習校の全体像をまとめた第 1 級の資料であり、今後もいろいろな局面で利用すべきである。重要な資料として教員、保護者を対象にアンケートがとられたことが挙げられる。アンケートを「言いつばなし」「聞きつばなし」にすることなく、せっかくのチャンスなので、これを元に、対話を進めることが望ましい。たとえば、Web-base で、質問に一問一答で答える形で対話を継続する。

そのほか

○欠席対策について

子供たちが土曜日にほかの活動に参加することにより、遅刻、早退、あるいは中抜けといった状況が生じるのはやむをえない側面がある。しかし、現状では、授業時間の途中で子供を連れ出したり教室に届けたりすることが見受けられる。教員は子供たちの集中力を持続させようと多大の努力をしている。それを阻害するような迷惑な行為が見られるのは残念であり、欠席対策をとると同時に最低限のモラルを守るよう保護者意識の啓発も行う必要がある。

○「帰国組」「永住組」

用語法に工夫が必要。表紙に委員の名前を列挙するところでもこのような色分けをする必要があるのか？たとえば、「短期組」「長期組」はいかがか？教育的な観点から見ても、滞米の年数、渡米の際の年齢などが言語能力形成の際の重要なポイントである。帰国するか、永住するかというのは主に親の都合であり、学校で子供を分類する尺度として適当か？いわゆる駐在員の場合でも滞在が 5 年を超える場合もある。

○「日本文化を伝えるイベント」の必要性

学校に子供のしつけまで求める昨今の風潮に一脈通じる。家庭や補習校において親や先生から伝えられるものが生きた「日本文化」そのものである。無制限に拡大すると、国際学級、あるいは文化教室と同じになる。

○「いろいろな背景を持つ子供たちの交流」「グローバルな視点」

これは具体的に何を指すのか？子供たちは日々これらの事を強いる環境にいる。「日本の視点」を教えてこそその補習校ではないのか？勿論、そのとき「日本の視点」を相対視するだけの配慮は必要であるが。その「相対化」の作業を指すのであれば理解できる。